



平成30年3月期 決算報告

クボテック株式会社

概要

- ◎フラットパネルディスプレイ(FPD)分野では、大手FPDメーカーは液晶や有機ELで投資を継続しており、設備投資は順調に推移しました。
- ◎当期は、売上は前期を上回り、ほぼ当初計画通りとなりました。
有機ELや機能性フィルム向け検査装置など液晶以外の受注、販売が増加し、また3DCADシステムの海外での収益拡大にも注力いたしました。
その結果、利益は計画を若干下回ったものの、概ね当初業績予想を達成することができました。
- ◎当社グループは、新規事業、新製品の開発・販売が徐々に成果を上げており、事業構造の改革やコスト削減効果と合わせて、安定した売上と利益の確保に努めました。
こうした状況から、前期の継続企業の前提に関する注記解消に続き、当期決算短信において、重要事象等の記載を解消しました。

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成30年3月期)	前期 (平成29年3月期)	来期予想 (平成31年3月期)
売上高	3,263	2,731	3,000
営業利益	195 (6.0%)	26 (1.0%)	100 (3.3%)
経常利益	183 (5.6%)	12 (0.4%)	90 (3.0%)
当期純利益	122 (3.8%)	1 (0.03%)	70 (2.3%)

◎当期は、主力の画像処理外観検査装置が国内及び中国向けに好調で前期に比べ増収となり、利益は計画を若干下回ったものの、ほぼ当初業績予想を達成し前期に比べ増益となりました。

◎海外子会社は、売上が変動する中においても技術開発と経費削減を進め、着実に収益性を改善し、当期においても、連結業績に寄与しました。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成30年3月期)		前期 (平成29年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,099	28.6	971	29.0
売上債権	1,313	34.1	1,019	30.5
たな卸資産	392	10.2	397	11.9
その他	82	2.1	△ 62	△ 1.9
固定資産	962	25.0	1,020	30.5
資産計	3,848	100.0	3,346	100.0
流動負債	2,317	60.2	1,864	55.7
固定負債	304	7.9	394	11.8
負債計	2,621	68.1	2,259	67.5
資本金	1,951	50.7	1,951	58.3
利益剰余金	△ 679	△ 17.6	△ 801	△ 23.9
その他	△ 45	△ 1.2	△ 62	△ 1.9
純資産計	1,227	31.9	1,087	32.5
負債及び純資産計	3,848	100.0	3,346	100.0

◎総資産は、前期末に比べ、現預金や売上債権などの増加で、38億4千万円となりました。

◎負債は、前期末に比べ、借入金が増加するなど、2億4千万円増加するなど、26億2千万円となりました。

◎純資産は、前期末に比べ、純利益の増加などから12億2千万円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当 期 (平成30年3月期)		前 期 (平成29年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	2,670	81.8	2,148	78.7
米 国	386	11.9	424	15.5
韓 国	206	6.3	158	5.8
計	3,263	100.0	2,731	100.0
うち海外	1,948	59.7	1,391	50.9

- ◎日本セグメントでは、主力の画像処理外観検査装置の売上が、国内、中国の大手FPDメーカー向けに好調で前期に比べ増収となりました。
特に有機ELや電池関連の機能性フィルム向けなど従来の液晶装置以外の売上が伸長しました。
- ◎米国セグメントでは、3次元CADソフトウェア「KEYCREATOR」の売上が減少しましたが、新製品の開発とグローバルな販売拡大に注力しました。
- ◎韓国セグメントでは、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連部品の販売や改造工事が増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成30年3月期)	前期 (平成29年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	43	43
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 190	△ 103
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	267	△ 265
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	8	△ 14
V.現金及び現金同等物の増加額	127	△ 340
VI.現金及び現金同等物の期首残高	939	1,280
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,067	939

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加はあるものの、減価償却、純利益の計上などから4千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、3DCADシステムの開発投資などで1億9千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行からの借入と返済によって2億6千万円の収入となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成30年3月期)	前期 (平成29年3月期)
受注高	1,860	3,024
受注残高	955	1,709

◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、FPDメーカーの設備投資が継続し、中国をはじめ海外、国内ともに一定の受注は確保することができました。さらに、現在引合中の中国での案件を上積みする予定です。

◎従来の液晶に加えて有機ELや機能性フィルム向けなどの新規分野の開拓を進めた結果当期の売上が増加し、今後もこれら検査装置の受注に注力する所存です。